

エコアクション21

環境経営レポート

令和5年度（2023.4～2024.3）



空に青 地に緑 空間を創造する

花山建設株式会社



令和6年8月5日 作成

も く じ

環境経営方針

1. 組織概要 3
2. E A 2 1 実施体制図表 4
3. 当年度の主要な環境経営活動計画の内容
4. 環境経営目標と、その実績の見直しと再設定
 - 4-1. 環境経営目標と、その実績 5
 - 4-2. 中期目標
 - 4-3. 実績推移 6
5. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無 7
6. 代表者による評価及び見直し
取り組みの結果と評価、次年度の取組内容
7. 追加資料 8

環 境 経 営 方 針

【環境への理念】

花山建設株式会社は、建築工事、土木工事、上下水道工事などの建設工事の施工を通じて、少なからず地球環境に影響を及ぼしていることを常に認識し、事業活動を進める上で全社をあげて環境負荷に対して継続的に低減に努めてまいります。

また、後世に現在の美しい環境を残せる努力をする事を、お約束します。

【環境に対するテーマ】

『 循環させよう資源！資源を大切に！ 』

が、地球にやさしい！

【基本方針】

花山建設株式会社は、建設事業を通じて地球環境に影響を与える環境負荷を継続的に削減し、全社一丸となって環境保全への取り組みを行っていきます。

【活動項目】

1. 二酸化炭素排出量（使用電力・使用化石燃料）の削減に努めます。
2. 上水道の使用量の削減に努めます。
3. 生産性の向上に努めます。
4. 産業廃棄物の分別、リサイクルを推進し、適正処理に努めます。
5. 濁水の過度な発生防止に努めます。
6. 建設騒音・振動の発生防止に努めます。
7. 環境関連法規の遵守に努めます。

令和6年4月1日改定

会社名 花山建設株式会社

花 山 優 一

1. 組織概要

【 事業 者 名 】

花山建設株式会社
代表取締役社長 花山 優一

【 所 在 地 】

(本 社)
〒804-0072 福岡県 北九州市 戸畑区 元宮町11-18

(枝光資材倉庫)
〒805-0002 福岡県 北九州市 八幡東区 枝光1786-16

【 連 絡 先 】

◆ 環境管理責任者 代表取締役社長 花山 優一
◆ 担 当 者 杉町 帆奈美 ・ 今川 知津江

TEL 093-871-1783 / FAX 093-871-7106
E-mail : hanayama@muse.ocn.ne.jp

【 事業 内 容 】

特定建設業

◆ 許可番号
福岡県知事 許可（特一3）第 26498 号

◆ 建設業の種類
土木工事業 建築工事業
とび・土工工事業 石工事業
ほ装工事業 塗装工事業
水道施設工事業 解体工事業

【 沿 革 】

昭和32年 4月 北九州市に花山組創業
代表者 花山春吉

昭和42年 11月 代表者 花山茂雄に変更

昭和48年 7月 有限会社花山建設へ組織変更
資本金110万円

昭和58年 4月 花山建設株式会社へ組織変更
資本金1,000万円に増資

平成 2年 3月 資本金2,000万円に増資

平成15年 6月 花山茂雄代表取締役を退任

平成15年 7月 花山武雄代表取締役に就任

平成19年 3月 北九州市戸畑区元宮町に新社屋建設

平成23年 1月 エコアクション21取得

平成28年 11月 ISO9001:2015認証取得

平成30年 7月 花山武雄 代表取締役会長に就任
花山優一 代表取締役社長に就任

【 保有資格・事業規模 】 令和6年8月現在

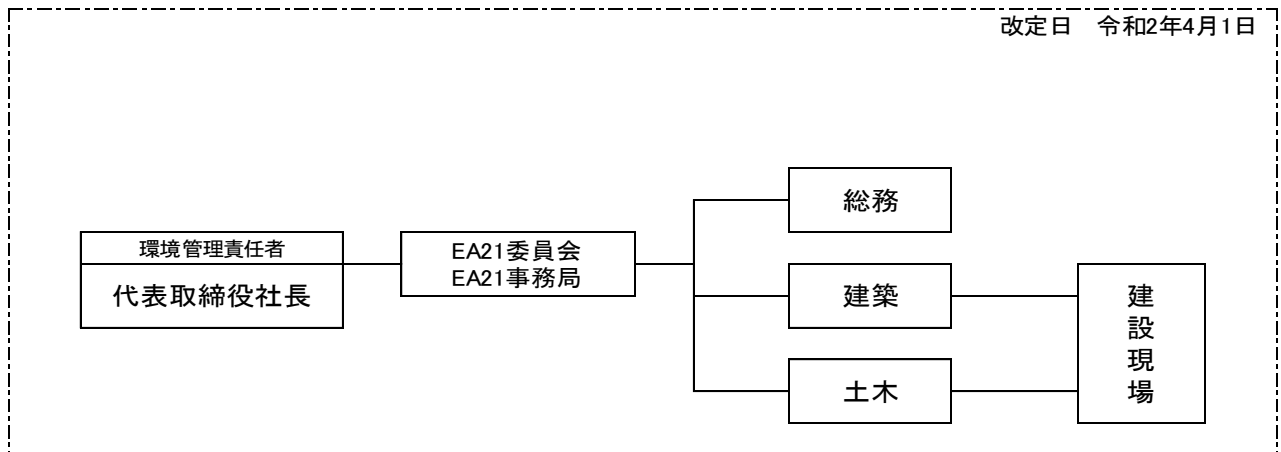
一級建築士 2名 一級建築施工管理技士 6名 一級土木施工管理技士 5名
二級建築士 2名 二級建築施工管理技士 1名 二級土木施工管理技士 2名

活 動 規 模	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
売 上 高	百万円	1036	1177	1,539
従 業 員 数	人	25	25	25
事 業 所 床 面 積	m ²	562	562	562
枝 光 倉 庫	m ²	230m ²	230m ²	230m ²

【EA21認証・登録範囲】 全組織 ・ 全活動 ・ 全従業員

令和5年度 事業年度 4月1日～翌年3月31日

2. EA21実施体制



役割分担表

所属	役割・責任・権限など
代表取締役社長	全体統括・環境経営方針等の決定、環境への取組を実施する為の資源の準備、全体の評価及び環境経営システムの構築、その状況などの見直しを図る。
EA21事務局 (総務)	本社の電力・燃料・水道（上水道）の消費量管理を行う。 EA21文書及び記録類の作成・維持・管理などを行う。
建築、土木 (全体)	1ヶ月に1回会議を開催し、環境目標の達成状況および活動計画を審議する。 産業廃棄物の適正処理とリサイクル処理の推進および産業廃棄物管理票交付等の整理と管理を行う。※ただしEA21の管理数値からは外す。



3. 当年度の主要な環境活動計画の内容

1	二酸化炭素排出量の削減	
①	電気使用量の削減	- エアコンの設定温度を定めて実行 - エアコンの使用は必要な場所、時間に限定する - 照明の省エネ化（不要な電球を外すなど） - 不要な照明、電気製品のスイッチを切る
②	ガソリン使用量の削減	- エコカーの導入の検討 - エコドライブの徹底(別紙) - 燃費表による管理
2	水使用量の削減(上水道)	社員全員の意識向上の促進、日々の節水活動 食器洗いでの適正な水使用
3	生産性の向上	各部門の電子化の推進
4	廃棄物の処理	リサイクル促進の実施・適正処分の実施
5	濁水の発生防止	濁水の発生を極力防止する
6	建設騒音・振動の発生防止	建設騒音・振動の発生を極力防止する



4.環境経営目標と、その実績の見直しと再設定

4-1 環境経営目標とその実績

(表1) <目標と実績 事業全体>

項 目	単 位	2023年度 (R5)			判 定
		基準値	目 標 値	実 施	
電力 	kWh	23,977	24,525	27,070	×
ガソリン燃費 ※1 	km/ℓ	11.41	11.41	11.62	×
水使用量 (上水道) 	m ³	117	102	136	×
産業廃棄物のリサイクル率 	%	100	100	100	○

◆今年度 CO2排出総量 **74,313** (kg-CO2)

4-2 中期目標

新たな目標値を下記の表に記します。

(表2) <次年度以降の目標値 事業全体>

項 目	単位	基準値	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)
			基準値1%向上	基準値2%向上	基準値3%向上
電力 	kWh	27,070	26,799	26,529	26,258
ガソリン燃費 ※1 	km/ℓ	11.41	11.41		
水使用量 (上水道) 	m ³	136	135	133	132
産業廃棄物リサイクル率 	%	100	100	100	100

※1 使用化石燃料は2021年度より燃費計算によって管理しています

*表1基準値は、(表3)の過去4年間の平均値としています

*表2基準値【電力】【水使用量】のみ2023年度の実施値を使用(枝光倉庫追加により使用量が増えたため)

*各目標値は別紙1を参照。(表2)ガソリン燃費の次年度以降の目標値は、不定期に車の入れ替わりがあるなど設定が不可能なため、基準値を目標としています

*CO2排出係数は九州電力の0.479 (kg-CO2/kWh) を使用しています(2020年度の調整後排出係数です)



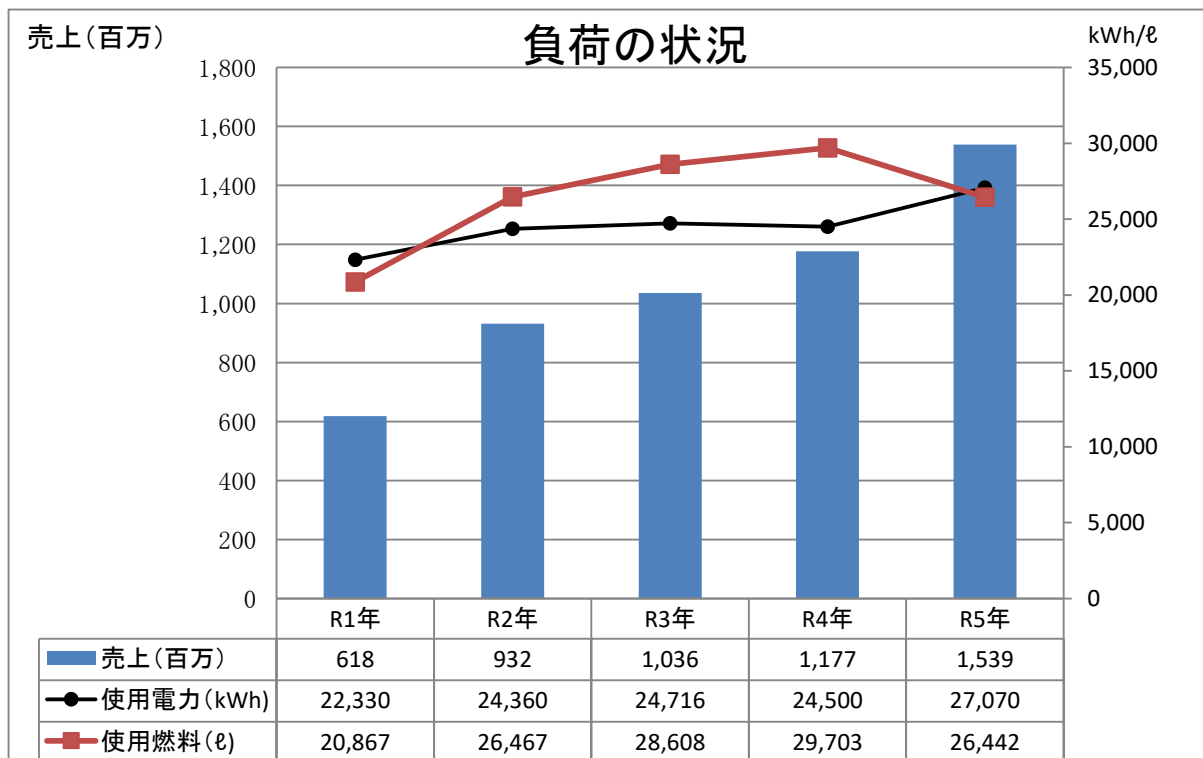
4-3 実績推移

(表3) <実績と推移 事業全体>

項 目	単位	実施値				
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
電力 	kWh	22,330	24,360	24,716	24,500	27,070
ガソリン燃費 ※1 	km/ℓ			11.10	11.72	11.62
水使用量 (上水道) 	m³	120	126	120	103	136
産業廃棄物リサイクル率 	%	100	100	100	100	100

◆今年度 CO2排出総量 **74,313** (kg-CO2)

(表4)



※令和1年は事業年度の変更(7月～翌年6月から4月～翌年3月へ変更)に伴い、売上が減少しています。

※1 使用化石燃料は2021年度より燃費計算によって管理しています(実施値は全体の平均値)

*(表3) 実施値は別紙1を参照

5. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

騒音規制法	環境関連法規への違反はありません、なお環境当局より違反等の指摘はありません。
廃棄物処理法	環境関連法規への違反はありません、なお環境当局より違反等の指摘はありません。
建設リサイクル法	環境関連法規への違反はありません、なお環境当局より違反等の指摘はありません。
資源有効利用促進法	環境関連法規への違反はありません、なお環境当局より違反等の指摘はありません。

6. 代表者による評価及び見直し 取り組みの結果と評価、次年度の取組内容



■ 取り組みの結果と評価

①二酸化炭素排出量の削減 (使用電力の削減) (使用化石燃料の削減)	電力	枝光倉庫分の使用電力が今期から増えたため、全体として増加した。
	燃料	現場の数・距離に応じて大きく燃費が変動する為、燃費の悪い車両もあり目標燃費は達成できなかったが、売上高に対する燃費は前年度よりも大幅に改善されている。
②水使用量の削減(上水道)	枝光倉庫分の水使用量が今期から増えたため、全体として増加した。	
③生産性の向上	内部確認用の不要な社内書類の削減・統一書類（工事経歴書・入金確認表など）を見直すことで社内でも重複していた業務を一か所でまとめ、より簡素化かつ効率的に行うように改善ができています。	
④廃棄物の処理	廃棄物の処理は各現場に応じてよく管理できている。	
⑤濁水の発生防止	各現場、必要に応じて適切な処理を行った。	
⑥建設騒音・振動の発生防止		

■ 次年度の取組内容

①二酸化炭素排出量の削減 (使用電力の削減) (使用化石燃料の削減)	電力	エアコンの設定温度を決め実行する。 エアコンの使用は必要な場所、時間に限定する。 照明の省エネ化。 不要な照明、電気製品のスイッチを切る。
	燃料	エコドライブの徹底。 燃費表による管理。
②水使用量の削減(上水道)	食器洗いでの適正な水使用。 社員全員の意識向上を図り節水活動を行う。	
③生産性の向上	デジタル化できる部分は順次取り組んでいく。	
④廃棄物の処理	リサイクル促進の実施・適正処分の実施。	
⑤濁水の発生防止	濁水の発生を極力防止する。	
⑥建設騒音・振動の発生防止	建設騒音・振動の発生を極力防止する。	

総 評

EA21及びISO9001を並行して取り組む中で、双方関連する2つのシステムを効率的に運用しPDCAサイクルをまわせるようになってきたが、依然として地球環境の変化や社会情勢に応じて環境マネジメントに沿った取組の工夫と必要性がある。

7. 追加資料

(1) 毎月のエコ会議



- ・ 月一回、社員全員で行う。月間目標を各月設定し、社員全員への周知徹底を促し、環境負荷の実績報告、目標達成状況、計画の実施状況を審議し次月に繋げる。

(2) 燃費点検表

燃費管理表		ドライバー名	
車両No.		今月の燃費目標 (A)	
前月の最終給油時メーター ①		101,491 km	
日付	走行距離メーター	走行距離 (B)	給油量 (C)
1	102, 047 km	102047 km	ℓ
2	102, 047 km	0 km	ℓ
3	102, 059 km	12 km	ℓ
4	102, 080 km	21 km	64. 04 ℓ
5	102, 110 km	30 km	ℓ
6	102, 136 km	26 km	ℓ
7	102, 163 km	27 km	ℓ
8	102, 199 km	36 km	ℓ
9	102, 199 km	0 km	ℓ
10	102, 489 km	290 km	ℓ
11	102, 500 km	11 km	ℓ
12	102, 543 km	43 km	ℓ
13	102, 568 km	25 km	ℓ
14	102, 624 km	56 km	ℓ
15	102, 687 km	63 km	67. 42 ℓ
16	102, 687 km	0 km	ℓ
17	102, 700 km	13 km	ℓ
18	102, 756 km	56 km	ℓ
19	102, 784 km	28 km	ℓ
20	102, 811 km	27 km	ℓ
21	102, 836 km	25 km	ℓ
22	102, 845 km	9 km	ℓ
23	102, 845 km	0 km	ℓ
24	102, 867 km	22 km	ℓ
25	103, 086 km	219 km	ℓ
26	103, 286 km	200 km	73. 47 ℓ
27	103, 512 km	226 km	ℓ
28	103, 532 km	20 km	ℓ
29	103, 598 km	66 km	ℓ
30	103, 632 km	34 km	ℓ
	103, 632 km	0 km	ℓ
合計給油量		204.93 ℓ ④	

前月の最終給油時メーター①	km	対目標増減 = ⑤ - (A)	km/ℓ
今月の最終給油時メーター②	km		
今月の走行距離 ③	km		
今月の給油量 ④	ℓ		
今月の燃費 ⑤	km/ℓ		

※2023年 4月 各車 燃費点検表より一部抜粋

- ・ 会議で発表し、実績グラフと照らし合わせながらチェックしPDCAを回す。